

令和7年度

運営に関する計画

【中間評価】

令和7年11月

大阪市立北中道小学校

大阪市立北中道小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は「明るく仲よく正しく生きる子、心身ともに健康でねばり強くがんばる子、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力をもち、個性と創造力豊かな子」という教育目標のもとに、令和3年度からめざす子ども像を「仲間と認め合い自らよりよく学ぶ子ども」とし、安全・安心な教育の推進と未来を切り拓く学力・体力の向上、学びを支える教育環境の充実をめざし、多様な教育活動を推進している。

安心・安全な教育の推進については、道徳性・社会性の育成に努めてきた。そこでは、多文化共生教育や特別活動に重点を置き人権を尊重する教育に取り組んだ。民族学級や国際理解教育の推進、異学年交流の推進、防災訓練など地域と連携した教育活動の工夫など進めて、互いのよさと違いを認め尊重し合う態度の育成を図った。その結果、「友だちを大切に、助け合っている」では、校内アンケートにおいて令和3年度末は90%以上の児童が肯定的回答をした。今後も、友だちを大切に、助け合える子どもを育成していくことに重点を置きたい。また、「自分にはよいところがある」では、校内アンケートにおいて令和3年度末は80%の児童が肯定的な回答をしている。今後も継続して自己肯定感の向上を図ることが課題である。

また、学力・体力の向上については、学習指導の充実と健康・体力の保持増進についての指導に努めてきた。そこでは、子どもの主体性を重視した学習指導と保健指導に取り組んだ。体育を中心とした教科指導の実践的な研究、自学自習できる環境整備、手洗い・うがいなど健康的な生活習慣の確立などを進めて、自ら学ぶ力と健康な心身の育成を図った。その結果、令和3年度末児童アンケートでは「授業に集中して取り組み、分からないところは先生に質問するなどしてそのままにしない」についての肯定的な回答の割合が、全校平均84%あった。今後も、自ら学ぶ力を育成していく必要がある。また、「運動やスポーツをすることが好きですか」についての肯定的な回答が、令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では大阪市平均を男女とも下回った。今後も運動への関心を高める続けることは課題である。

そして、学びを支える教育環境の充実については、ICT機器活用の推進に努めるとともに、会議や学校行事の精選を進めてきた。そこでは、児童が主体的にタブレット端末を活用できるよう取り組むとともに、教職員の負担軽減を図った。その結果、令和3年度末児童アンケートでは「進んでタブレットを使った学習に取り組んでいる」についての肯定的な回答の割合が、全校平均91%あった。今後も、主体的にタブレット端末を活用する環境づくりを進める必要がある。また、会議や行事の精選により、教職員の時間外勤務時間は縮減されてきてはいるが、課題を残している。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度より5%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より5ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。

○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
(R4 年度 75.4%) → (R5 年度 77.3%) → (R6 年度 79.3%)
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(R4 年度 2.55%) → (R5 年度 1.62%) → (R6 年度 0.80%)
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を 100%にする。
(R4 年度 0%) → (R5 年度 33.3%) → (R6 年度 100%)
- ④ 令和 7 年度末学校アンケート（児童対象）で「自分にはよいところがある」の項目の肯定的な回答の割合を 81%以上にする。(R4 年度 86%) → (R5 年度 82%) → (R6 年度 80%)
- ⑤ 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を、94%以上にする。
(R4 年度経年 90.6%) → (R5 年度校内 92% 経年調査 93.9%) → (R6 年度校内 96% 経年 93.7%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合 40%以上にする。(R4 年度 41.4%) → (R5 年度 43.8%) → (R6 年度 36.8%)
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R4 年度 79.6%) → (R5 年度 64.9%) → (R6 年度 73.6%)
- ④ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R4 年度 82.5%) → (R5 年度 84.0%) → (R6 年度 75.6%)
- ⑤ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 74%以上にする。(R4 年度 69.5%) → (R5 年度 72.7%) → (R6 年度 73.5%)
- ⑥ 令和 7 年度末学校アンケート(児童対象)で「学習中に、自分もやればできると感じることもある」項目で肯定的な回答の割合を 84%以上にする。(R4 年度 79%) → (R5 年度 79%) → (R6 年度 86%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 52%以上にする。
- ② 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 82%以上にする。(R5 年度 84%) → (R6 年度 81.5%)

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立北中道小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R4：75.4%) → (R5：77.3%) → (R6：79.3%)</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R4：2.55%) → (R5：1.62%) → (R6：0.80%)</p> <p>③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を100%にする。(R4：0%) → (R5：33.3%) → (R6：100%)</p> <p>④ 令和7年度末学校アンケート（児童対象）で「自分にはよいところがある」の項目の肯定的な回答の割合を81%以上にする。(R4：86%) → (R5：82%) → (R6：79%)</p> <p>⑤ 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を、94%以上にする。(R4：経年90.6%) (R5：校内92% 経年93.9%) → (R6：校内96% 経年93.7%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校、いじめの対応を組織的に行うようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとのいじめアンケートについて「今のクラスになっていじめられている。」に「はい」と答えた児童への聞き取りを行い100%対応する。(R6 100%) ・1日1回以上、「心の天気」を入力させ、児童の心の変化に気づきやすいようにする。 ・不登校とみられる児童への対応について学校全体だけでなく、関係諸機関と連携を取りつつ対応した割合を100%にする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>学校・保護者・地域が連携して「仲間づくり」を中心とした国際理解教育や人権教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育、人権教育の年間指導計画を見直し、保護者・地域と連携した教育活動を実践する。本校の外国人教育について、教職員に対し年3回以上研修または共通理解の場を設け、児童に対し各学年1回以上民族講師との課内活動に取り組んだり交流給食を行ったりする。 ・学校アンケート(児童対象)における「自分がされていやなことは人にしないようにしている」の項目について肯定的な回答をした児童の割合を85%以上、(R6 前期90.1%後期85%)「いろいろな国の生活や文化をもっと知りたい。」の項目について肯定的な回答をした児童の割合を80%以上にする。(R6 前期82.6%後期80%) 	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>にじいろ班活動やにじいろ行事を通して異学年交流を深め、子どもの心を豊かにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、各々の学年に応じた役割を意識して、児童集会やにじいろ清掃、にじいろ班活動等の異学年交流に取り組めるように実施し、学校アンケート(児童対象)における「ちがう学年(にじいろ班など)の人たちと活動することが楽しい。」の項目について肯定的な回答した児童の割合を85%以上にする。(R6 85%) 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・いじめアンケートにおいて、「はい」と答えた児童の聞き取りは 100%実施できている。いじめ案件では、管理職と連携を取り対応することに加え、児童理解の会や生活指導部会などを通して教職員全体で共有することができている。また、不登校児童、学校に来にくい児童は昨年と比べ減少している。教室に入りにくい児童への対応については、学級担任を中心に、特別支援担当、養護教諭、職員室からのサポートなど連携して行うことができている。今後も SC、区役所とも連携しながら対応していく。

取組内容②

- ・夏季休業中に教職員向けに外国人教育研修を実施したことにより、民族学級の歴史とその背景について理解を深めることができた。
- ・児童アンケート「自分がされていやなことを人にしない」の肯定的回答は 93%で、目標である 85%に達している。保健指導、児童朝会、学級等、あらゆる場面で繰り返し指導している結果であるといえる。また、児童アンケート「いろいろな国の生活や文化をもっと知りたい」の肯定的回答は 83%で、目標である 80%に達している。児童朝会や集会での全校での挨拶、朝の会や給食での学級ごとの挨拶、掲示物など日々の学校生活の中でも国際理解について取り組んでいる。今後、国際理解教育ウリマダン発表会が計画されている。

取組内容③

- ・学校アンケート「ちがう学年（にじいろ班など）の人たちと活動することが楽しい」の肯定的回答は 88%で、目標である 80%に達している。にじいろフェスティバルを 1 学期に実施したこと、集会時に仲良くなれるよう班内での遊びを工夫したことで、早い段階でにじいろ班のまとまりを意識した活動ができている。居場所を感じ積極的に参加する児童が増えた一方で、仲間意識、役割意識が低く楽しめていない児童もいる。

最終評価までの改善点

取組内容①

- ・いじめのない学校づくりを目指して指導を継続する。「心の天気」が未入力になりがちな児童が固定化されてきており、そうした児童に限って課題がある場合が多い。曇り、雷、雨を入力している児童に対してはきちんと確認して、学級担任だけでなく学年に関わる教員と連携しながら声をかけるようにする。そうして入力結果を指導に生かしやすい環境を作る。

取組内容②

- ・今後も、民族講師との交流や、国際理解教育ウリマダン発表の場、日々の学習を通じて外国に対する興味・関心を高められるように活動を継続していく。時事のニュースやスポーツの結果を話題にすることでいろいろな国への関心が深まり国際理解への素地になるようにしたい。今年度は万博へ参加をすることで、いろいろな国について興味をもつことができた。
- ・「自分の感じ方と他の人の感じ方は違うことある」も大切にし、自分がされていやなことだけでなく、「自分は嫌でなくても相手にとっては嫌なこともある」ということを含めて指導を継続していく。

取組内容③

- ・今後のにじいろオリエンテーリング、にじいろ大縄大会などの行事において、ペア学年を活用するなど、学年に応じた役割を感じられるようにし、仲間意識や班の結束を高め、全体で楽しめるよう計画していく。

大阪市立北中道小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を40%以上にする。(R4: 41.4%) → (R5: 43.8%) → (R6: 36.8%)</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R4 年度 79.6%) → (R5 年度 64.9%) → (R6 年度 73.6%)</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R4: 82.5%) → (R5: 84.0%) → (R6: 75.6%)</p> <p>⑤ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を74%以上にする。(R4 年度 69.5%) → (R5 年度 72.7%) → (R6 年度 73.5%)</p> <p>⑥ 令和7年度末学校アンケート(児童対象)で「学習中に、自分もやればできると感じることもある」の項目で肯定的な回答の割合を84%以上にする。(R4: 79%) → (R5: 79%) → (R6: 86%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>指導方法を工夫して、学習内容の定着を目指し、また、自宅学習の習慣を確立できるような支援に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート(児童対象)の「きちんと宿題に取り組んでいる。」の項目について、肯定的な回答を95%以上にする。(R5 年度最終 93%) → (R6 年度 99%) ・学校アンケート(児童対象)で「話し合う活動では、自分の考えを友だちに伝えることができる。」の項目について、肯定的な回答を83%以上にする。(R5 年度最終 85%) → (R6 年度 82%) ・学校アンケート(児童対象)の「生活・理科の学習は好きだ」の項目について肯定的な回答を85%以上にする。(R5 年度最終 79%) → (R6 年度 88%) ・学校アンケート(児童対象)で「外国語(英語)やモジュールの学習は好きだ」の項目について、肯定的な回答を80%以上にする。(R5 年度最終 82%) → (R6 年度 80%) 	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>げんきアップ週間の取り組みや外遊びの啓発、体育科学学習の指導方法の工夫により、健康や運動への関心を高める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・げんきアップ週間の振り返りで「昨日、おうちの人ときめた時間に布団に入った」(R7 年度より)の項目について達成率を70%以上にする。(R7 年度より) ・げんきアップ週間の振り返りで「寝る前はゲーム・スマホ・タブレットなどの画面を見なかった」の項目について達成率を70%以上にする (R6 年度最終…68%) ・学校アンケート(児童対象)で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは楽しい」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。(R6 年度より) (R6 年度 93%) ・年間で2回以上にじいる班活動で体力向上の活動に取り組む。(R6 年度より) (R6 年度 1 学期なし 2 学期全校オリエンテーリング、3 学期大縄大会) 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・児童アンケート「きちんと宿題に取り組んでいる」(97%目標値 95%)、「外国語（英語）やモジュールの学習は好きだ」の肯定的回答は（83%目標値 80%）と、目標値に達している。しかし、「話し合い活動では、自分の考えを友だちに伝えることができる」(81%目標値 83%)、「生活や理科の学習は好きだ」(80%目標値 85%)と目標値に達していない。昨年度よりわずかに数値は下がっている項目が多い。

取組内容②

- ・げんきアップ週間の振り返りで「昨日、おうちの人ときめた時間に布団に入った」の項目の肯定的回答は（78%目標値 70%）と、目標値に達している。
- 「寝る前はゲーム・スマホ・タブレットなどの画面を見なかった」の達成率は 70%で目標値の 70%に達しているが、昨年度(1～3 年 76%、4～6 年 70%)と比べて、数値は下がっている。
- ・児童アンケート「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは楽しい」の肯定的回答は 88%で、目標値の 90%に達していない。
- ・「年間で 2 回以上にじいる班活動で体力向上の活動に取り組む」ことについては、全校オリエンテーリングや大縄大会の実施に向けて計画を進めている。

最終評価までの改善点

取組内容①

- ・「きちんと宿題に取り組んでいる」の肯定的回答は 97%以上と高い数値である。取り組めている児童に対しては引き続き取り組めるよう声掛けをしていく。それに加えて 3%の取り組めていない児童への支援（保護者への働きかけや個別指導）をしっかりと行っていく。
- ・「話し合う活動では、自分の考えを友達に伝えることができる」の肯定的回答をした児童の割合を上げるためには、自己表現が苦手な児童が成長できる取り組みが必要である。消極的な児童も、ペアやグループでは発言することができており、自分の意見をもつことができている。しかし、全体での発表に対しては消極的な児童も多く、同じ児童が挙手している様子がみられる。ICT 端末等も活用し、どの意見もまずは受け入れる環境づくりに努めていく。
- ・「生活・理科が好きだ」の項目の肯定的回答をする児童の割合を高めるには、実際に触ったり観察したり実験したりする活動の時間を十分にとる。意欲をもって全員が参加できる学習の工夫が今後必要であるため、適宜研修等も開き、参加することで指導力の向上を目指す。
- ・「外国語（英語）やモジュールの学習は好きだ」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を高めるには、外国語の研修等を参考にし、児童がより楽しく英語に触れることができるように取り組んでいく。

取組内容②

- ・睡眠習慣については低学年の状況として年々、就寝時刻が遅い児童が増え、達成度も低くなっている状況がある。児童の様子（週明けや週末、午後）として、生活リズムの崩れや睡眠不足（睡眠負債）の様子がみられる。児童・保護者へ「睡眠」についての情報発信を継続していく。
- ・夏休みの生活習慣の影響からか、1 学期に比べ寝る前にゲームやスマホなどを見ている児童が多く、達成度の個人差も大きい。2 学期の取り組みとして「ぐっすりねるデー（12 月）」を通して、夜のメディア機器との付き合い方について考え、児童だけでなく家庭全体で取り組む機会をつくる（計画中）。
- ・「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは楽しい」では、みんな遊びの回数を増やす等、運動をする時間と場所の確保を検討していく。

大阪市立北中道小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の52%以上にする。(R6：1月末51.6%) ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を82%以上にする。 (R5年度84%) → (R6年度81.5%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 学習者用端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を推進する。 <hr/> 指標 ・学校アンケート（児童対象）の「使い方のきまりを守って、毎日タブレットを使っている」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。(R6年度：92%)	B
取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員間の情報交換・コミュニケーションの充実を図り、協働的に業務に取り組める環境づくりを推進する。 <hr/> 指標 ・ゆとりの日に18時までに退勤する教職員を90%以上にする。 ・教員の時間外勤務時間の1か月平均を30時間以下にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・児童アンケート「使い方のきまりを守って、毎日タブレットを使っている。」の肯定的回答は96%で目標値に達しているが、タブレットが故障することが多く、新端末に移行し、家庭に持ち帰る機会が増えるので、使い方のきまりを徹底していく必要がある。

取組内容②

- ・「ゆとりの日」の掲示もあり、ゆとりの日には18時までには退勤することを意識できている教職員は増えてきている。
- ・時間外勤務時間の1か月平均30時間以下の達成率は、8月末までで64%である。1か月平均の勤務時間が昨年度より2時間ほど増えているので、業務を精選して減らしていく努力が必要である。

最終評価までの改善点

取組内容①

- ・心の天気の入力を徹底し、学習内容によりタブレットが活用できる教科では進んで活用していく。
- ・今年度よりchromeへ端末の移行も順次行われるので、タブレットの使い方のきまりを共通理解し十分活用できるように進めていく必要がある。

取組内容②

- ・業務を精選する方法を考え、1か月平均30時間以上勤務している教職員の勤務時間を減らしていけるようにする。
- ・協働的に業務に取り組める環境づくりを推進するため連絡調整が大切なので、連絡掲示板は毎日確認し、連絡や報告など基本的なやりとりを的確に行うようにする。